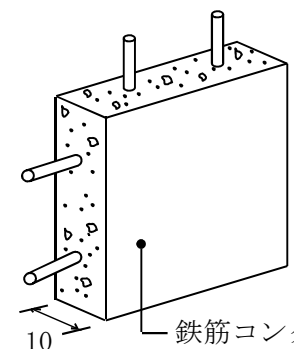
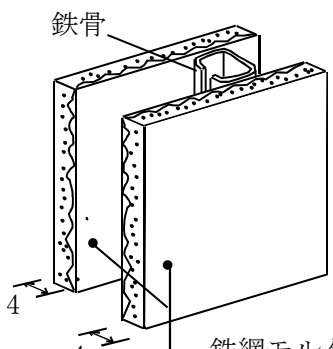
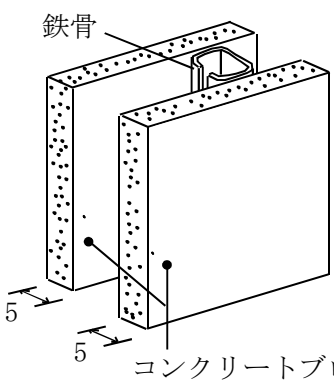
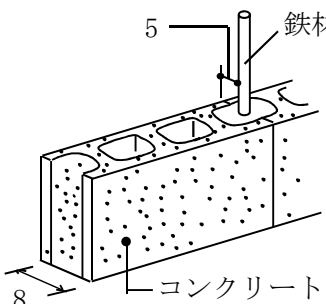
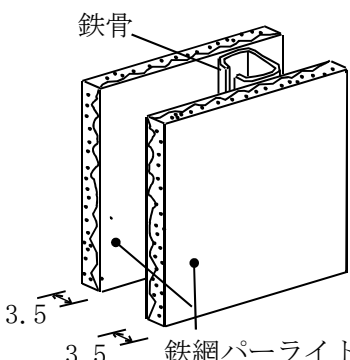
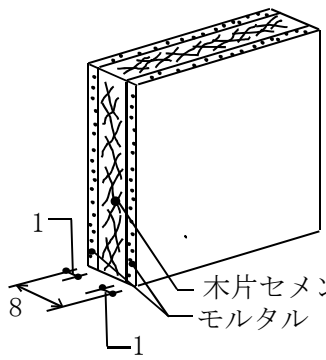


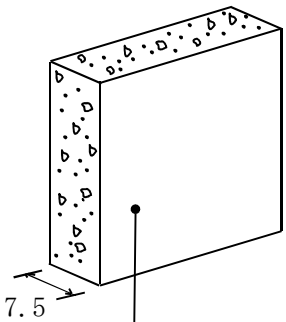
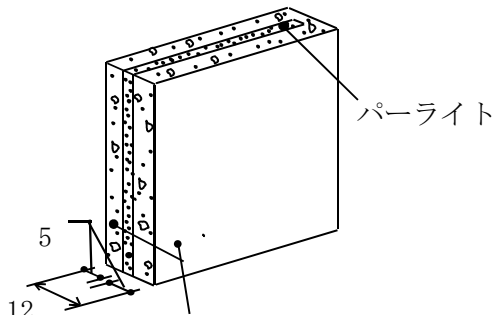
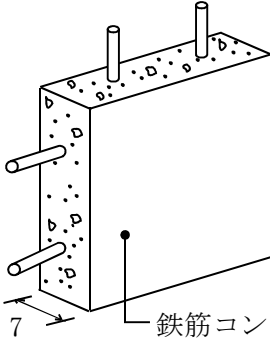
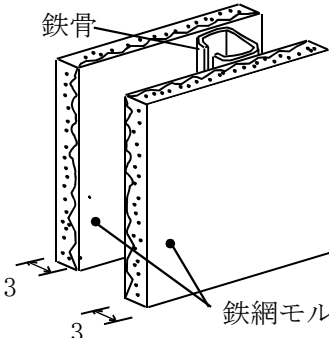
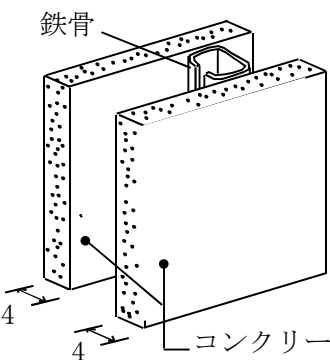
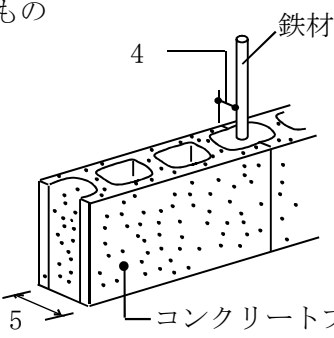
耐火構造・準耐火構造・防火構造の構造例

1 耐火構造の構造例

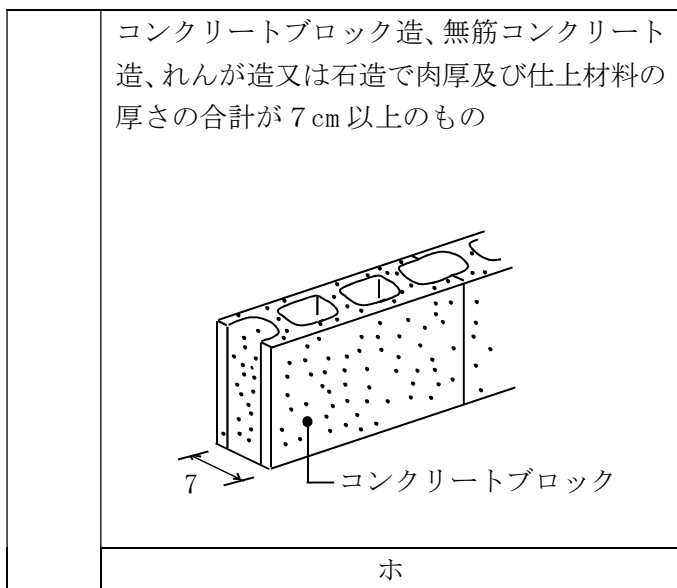
耐火構造	<p>【建築基準法第2条第7号】 耐火構造 壁、柱、床その他の建築物の部分のうち、耐火性能（通常の火災が終了するまでの間当該火災による建築物の倒壊及び延焼を防止するために当該建築物の部分に必要とされる性能をいう。）に関して政令で定める技術的基準に適合する鉄筋コンクリート造、れんが造その他の構造で、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものをいう。</p>				
	<p>【建築基準法施行令第107条】 法第2条第7号の政令で定める技術的基準は、次に掲げるものとする。 一 次の表に掲げる建築物の部分にあつては、当該部分に通常の火災による火熱がそれぞれ次の表に掲げる時間加えられた場合に、構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないものであること。</p>				
	建築物の階		最上階及び最上階から数えた階数が2以上で4以内の階	最上階から数えた階数が5以上で14以内の階	最上階から数えた階数が15以上の階
	建築物の部分				
	壁	間仕切壁(耐力壁に限る)	1時間	2時間	2時間
		外壁(耐力壁に限る)	1時間	2時間	2時間
	柱		1時間	2時間	3時間
	床		1時間	2時間	2時間
	はり		1時間	2時間	3時間
	屋根		30分間		
階段		30分間			
<p>一 この表において、第2条第1項第8号の規定により階数に算入されない屋上部分がある建築物の部分の最上階は、当該屋上部分の直下階とする。 二 前号の屋上部分については、この表中最上階の部分の時間と同一の時間によるものとする。 三 この表における階数の算出については、第2条第1項第8号の規定にかかわらず、地階の部分の階数は、すべて算入するものとする。</p>					
<p>二 壁及び床にあつては、これらに通常の火災による火熱が1時間（非耐力壁である外壁の延焼のおそれのある部分以外の部分にあつては、30分間）加えられた場合に、当該加熱面以外の面（屋内に面するものに限る。）の温度が当該面に接する可燃物が燃焼する恐れのある温度として国土交通大臣が定める温度（以下「可燃物燃焼温度」という。）以上に上昇しないものであること。 三 外壁及び屋根にあつては、これらに屋内において発生する通常の火災による火熱が1時間（非耐力壁である外壁の延焼のおそれのある部分以外の部分にあつては、30分間）加えられた場合に、屋外に火炎を出す原因となるき裂その他の損傷を生じないものであること。 ※ 耐力壁：地震や台風による横揺れ（水平力）から、建物の変形を起こしにくくする壁</p>					

耐火構造の構造方法を定める件（平成12年建設省告示第1399号）

<p>留意事項</p>	<p>かぶりの厚さ又は厚さは、それぞれモルタル、プラスターその他これらに類する仕上材料の厚さを含む。(単位：cm)</p>	
<p>第1</p>	<p>鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨コンクリート造（鉄骨に対するコンクリートのかぶり厚さが3cm未満のものを除く。）で厚さが10cm以上のもの</p>  <p>鉄筋コンクリート造</p>	<p>軸組を鉄骨造とし、その両面を塗厚さが4cm以上の鉄網モルタルで覆ったもの（塗下地が不燃材料で造られていないものを除く。）</p>  <p>鉄骨</p> <p>鉄網モルタル</p>
	<p>軸組を鉄骨造とし、その両面を厚さが5cm以上のコンクリートブロック、れんが又は石で覆ったもの</p>  <p>鉄骨</p> <p>コンクリートブロック</p>	<p>鉄材によって補強されたコンクリートブロック造、れんが造又は石造で、肉厚及び仕上材料の厚さの合計が8cm以上であり、かつ、鉄材に対するコンクリートブロック、れんが又は石のかぶり厚さが5cm以上のもの</p>  <p>鉄材</p> <p>コンクリートブロック</p>
	<p>軸組を鉄骨造とし、その両面を塗厚さが3.5cm以上の鉄網パーライトモルタルで覆ったもの（塗下地が不燃材料で造られていないものを除く。）</p>  <p>鉄骨</p> <p>鉄網パーライトモルタル</p>	<p>木片セメント板の両面に厚さ1cm以上のモルタルを塗ったものでその厚さの合計が8cm以上のもの</p>  <p>木片セメント版</p> <p>モルタル</p>
<p>ホ</p>	<p>ヘ</p>	

	<p>軽量気泡コンクリートパネルで厚さが7.5cm以上のもの</p>  <p>7.5 軽量気泡コンクリートパネル</p>	<p>中空鉄筋コンクリート製パネルで中空部分にパーライト又は気泡コンクリートを充填したもので、厚さが12cm以上であり、かつ、肉厚が5cm以上のもの</p>  <p>パーライト 5 12 中空鉄筋コンクリート製パネル</p>
第1	<p>鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨コンクリート造で厚さが7cm以上のもの</p>  <p>7 鉄筋コンクリート造</p>	<p>軸組を鉄骨造とし、その両面を塗厚さが3cm以上の鉄網モルタルで覆ったもの（塗下地が不燃材料で造られていないものを除く。）</p>  <p>鉄骨 3 3 鉄網モルタル</p>
二	<p>軸組を鉄骨造とし、その両面を厚さが4cm以上のコンクリートブロック、れんが又は石で覆ったもの</p>  <p>鉄骨 4 4 コンクリートブロック</p>	<p>鉄材によって補強されたコンクリートブロック造、れんが造又は石造で、肉厚が5cm以上であり、かつ、鉄材に対するコンクリートブロック、れんが又は石のかぶり厚さが4cm以上のもの</p>  <p>鉄材 4 5 コンクリートブロック</p>
	ハ	ニ

【1 耐火構造の構造例】

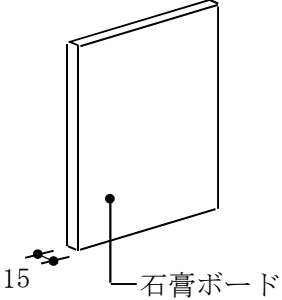
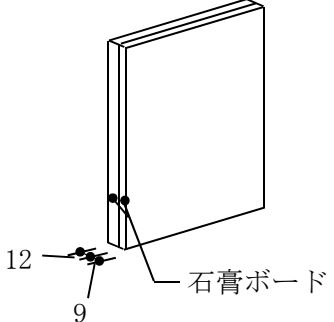
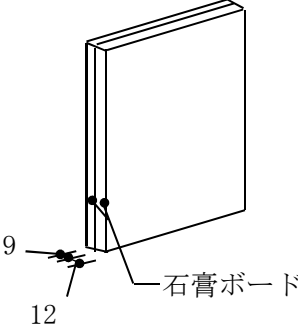
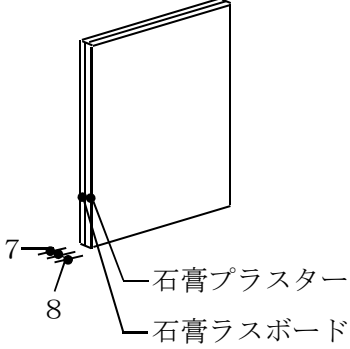


※ 本資料は、耐火構造の構造方法を定める件（平成12年建設省告示第1399号）第1、一及び二の一部を抜粋したものである。

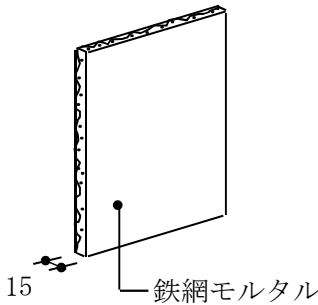
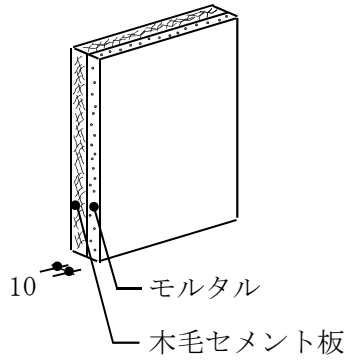
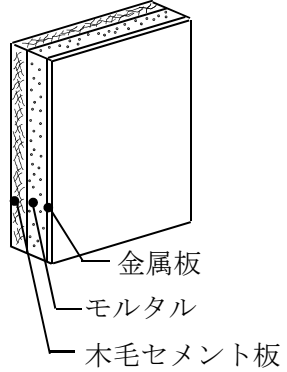
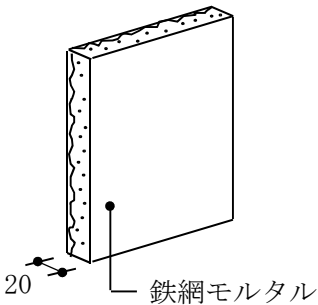
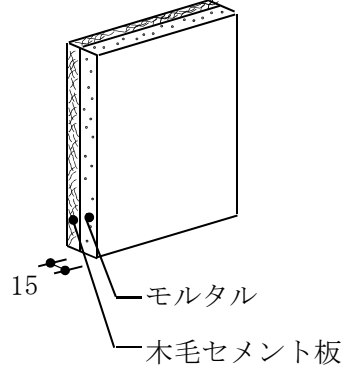
2 準耐火構造の構造例

準耐火構造	<p>【建築基準法第2条第7号の2】</p> <p>準耐火構造 壁、柱、床その他の建築物の部分の構造のうち、準耐火性能（通常の火災が終了するまでの間当該火災による建築物の倒壊及び延焼を防止するために当該建築物の部分に必要とされる性能をいう。）に関して政令で定める技術的基準に適合する鉄筋コンクリート造、れんが造その他の構造で、国土交通大臣が認めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものをいう。</p>																				
	<p>【建築基準法施行令第107条の2】</p> <p>法第2条第7号の2の政令で定める技術的基準は、次に掲げるものとする。</p> <p>一 次の表に掲げる建築物の部分にあつては、当該部分に通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後それぞれ次の表に掲げる時間構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないものであること。</p>																				
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">壁</td> <td>間仕切壁(耐力壁に限る)</td> <td>45分間</td> </tr> <tr> <td>外壁(耐力壁に限る)</td> <td>45分間</td> </tr> <tr> <td>柱</td> <td></td> <td>45分間</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td></td> <td>45分間</td> </tr> <tr> <td>はり</td> <td></td> <td>45分間</td> </tr> <tr> <td>屋根(軒裏を除く。)</td> <td></td> <td>30分間</td> </tr> <tr> <td>階段</td> <td></td> <td>30分間</td> </tr> </table>	壁	間仕切壁(耐力壁に限る)	45分間	外壁(耐力壁に限る)	45分間	柱		45分間	床		45分間	はり		45分間	屋根(軒裏を除く。)		30分間	階段		30分間
	壁		間仕切壁(耐力壁に限る)	45分間																	
		外壁(耐力壁に限る)	45分間																		
	柱		45分間																		
	床		45分間																		
	はり		45分間																		
	屋根(軒裏を除く。)		30分間																		
	階段		30分間																		
<p>二 壁、床及び軒裏（外壁によって小屋裏又は天井裏と防火上有効に遮られているものを除く。以下この号において同じ。）にあつては、これらに通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後45分間（非耐力壁である外壁及び軒裏（いずれも延焼のおそれのある部分以外の部分に限る。）にあつては30分間）当該加熱面以外の面（屋内に面するものに限る。）の温度が可燃物燃焼温度以上に上昇しないものであること。</p>																					
<p>三 外壁及び屋根にあつては、これらに屋内において発生する通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後45分間（非耐力壁である外壁（延焼の恐れのある部分以外の部分に限る。）及び屋根にあつては、30分間）の延焼のおそれのある部分以外の部分及び屋根にあつては、30分間）屋外に火炎を出す原因となる亀裂その他の損傷を生じないものであること。</p>																					

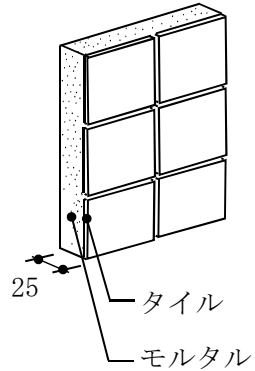
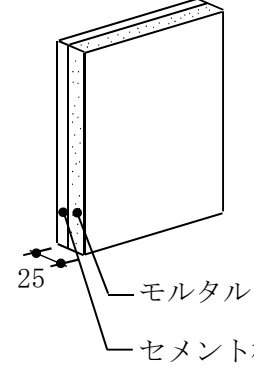
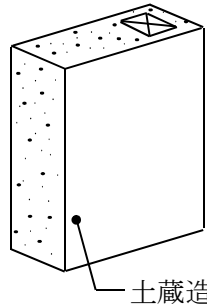
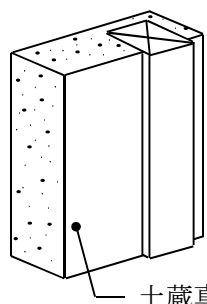
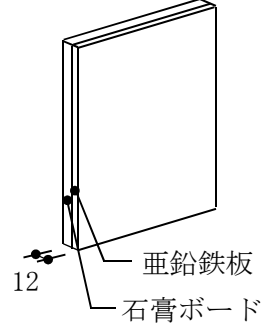
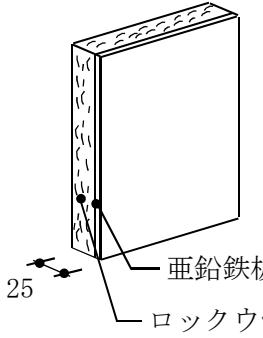
準耐火構造の構造方法を定める件(平成12年建設省告示第1358号)

<p>留意事項</p>	<p>間柱及び下地を木材又は鉄材で造り、両側に防火被覆が設けられたもの：一ハ(1)、(2) 間柱及び下地を不燃材料で造り、両側に防火被覆が設けられたもの：一ハ(3) 間柱及び下地を不燃材料以外で造り、両側に防火被覆が設けられたもの：一ハ(4) 間柱及び下地を木材で造り、屋内・屋外側に防火被覆が設けられたもの：三ハ(1)、(2) (単位：mm)</p>	
<p>一ハ(1)及び(2)</p>	<p>厚さが15mm以上の石膏ボード(強化石膏ボード含む。以下同じ。)</p>  <p>(ii)</p>	<p>厚さが12mm以上の石膏ボードの上に厚さが9mm以上の石膏ボード又は難燃合板を張ったもの</p>  <p>(iii)</p>
<p>一ハ(1)及び(2)</p>	<p>厚さが9mm以上の石膏ボード又は難燃合板の上に厚さが12mm以上の石膏ボードを張ったもの</p>  <p>(iv)</p>	<p>厚さが7mm以上の石膏ラスボードの上に厚さ8mm以上の石膏 plaster を塗ったもの</p>  <p>(v)</p>

【2 準耐火構造の構造例】

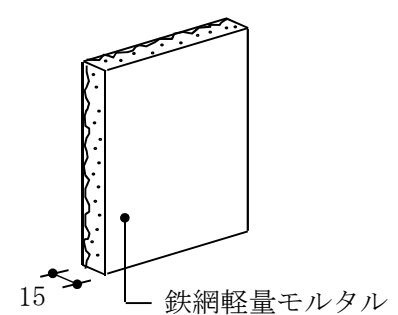
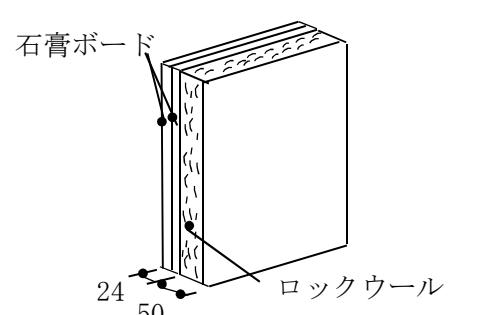
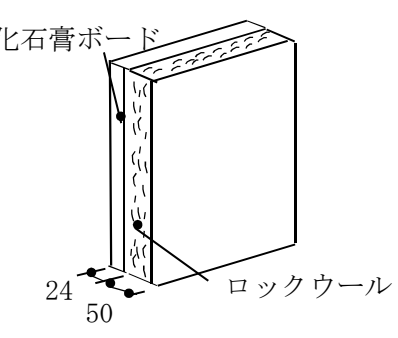
	<p>塗厚さが 15mm 以上の鉄網モルタル</p> 	<p>木毛セメント板又は石膏ボードの上に厚さ 10mm 以上のモルタル又はしっくいを塗ったもの</p> 
<p>一ハ</p>	<p>(i)</p>	<p>(ii)</p>
<p>(3)</p>	<p>木毛セメント板の上にモルタル又はしっくいを塗り、その上に金属板を張ったもの</p> 	
	<p>(iii)</p>	
<p>一ハ (4)</p>	<p>塗厚さが 20mm 以上の鉄網モルタル又は木ずりしっくい</p> 	<p>木毛セメント板又は石膏ボードの上に厚さ 15mm 以上のモルタル又はしっくいを塗ったもの</p> 
	<p>(i)</p>	<p>(ii)</p>

【2 準耐火構造の構造例】

<p>モルタルの上にタイルを張ったものでその厚さの合計が 25mm 以上のもの</p> 	<p>セメント板又は瓦の上にモルタルを塗ったものでその厚さの合計が 25mm 以上のもの</p> 
<p>(iii)</p>	<p>(iv)</p>
<p>土蔵造</p> 	<p>土蔵真壁造で裏返塗りをしたもの</p> 
<p>(v)</p>	<p>(vi)</p>
<p>厚さが 12mm 以上の石膏ボードの上に亜鉛鉄板を張ったもの</p> 	<p>厚さ 25mm 以上のロックウール保温板の上に亜鉛鉄板を張ったもの</p> 
<p>(vii)</p>	<p>(viii)</p>

【2 準耐火構造の構造例】

三ハ (1)	厚さが 12mm 以上の石膏ボードの上に金属板を張ったもの	木毛セメント板又は石膏ボードの上に厚さ 15mm 以上モルタル又はしっくいを塗ったもの
	(ii)	(iii)
	モルタルの上にタイルを張ったものでその厚さの合計が 25mm 以上のもの	セメント板又は瓦の上にモルタルを塗ったものでその厚さの合計が 25mm 以上のもの
	(iv)	(v)
厚さが 25mm 以上のロックウール保温板の上に金属板を張ったもの		
(vi)		

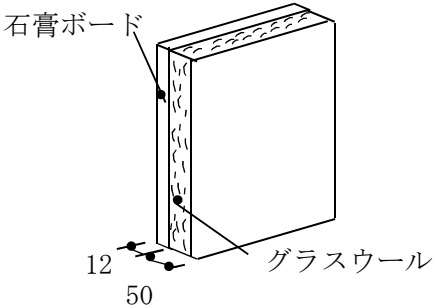
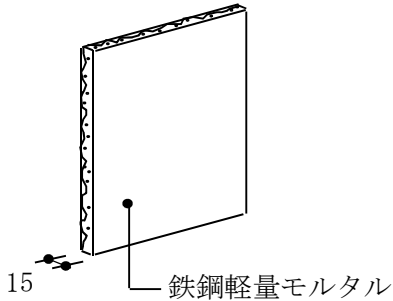
	<p>塗厚さが 15mm 以上の鉄網軽量モルタル（モルタル部分に含まれる有機物の量が当該部分の 8% 以下のものに限る。）</p>  <p>15 鉄網軽量モルタル</p>	<p>厚さが 50mm 以上のロックウール（かさ比重が 0.024 以上のものに限る。）又はグラスウール（かさ比重が 0.01 以上のものに限る。）を充填した上に、石膏ボードを 2 枚以上張ったものでその厚さの合計が 24mm 以上のもの</p>  <p>石膏ボード 24 50 ロックウール</p>
	(i)	(ii) ※石膏ボードの場合
<p>三ハ (2)</p>	<p>厚さが 50mm 以上のロックウール（かさ比重が 0.024 以上のものに限る。）又はグラスウール（かさ比重が 0.01 以上のものに限る。）を充填した上に、厚さが 21mm 以上の強化石膏ボード（ボード用原紙を除いた部分の石膏含有率を 95% 以上、ガラス繊維の含有率を 0.4% 以上とし、かつ、ひる石の含有率を 2.5% 以上としたものに限る。）を張ったもの</p>  <p>強化石膏ボード 24 50 ロックウール</p>	
	(ii) ※強化石膏ボードの場合	

※ 本資料は、準耐火構造の構造方法を定める件（平成 12 年建設省告示第 1358 号）第 1、一及び三の一部を抜粋したものである。

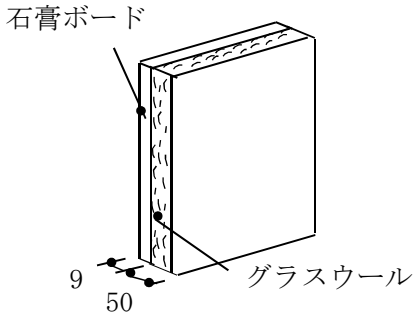
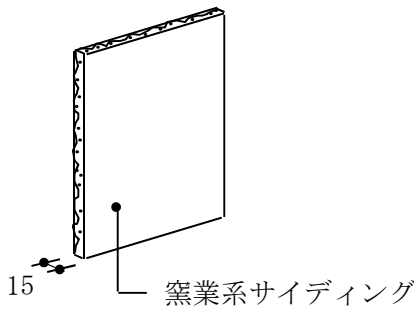
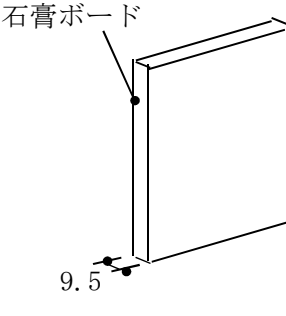
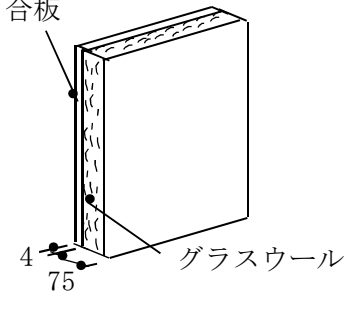
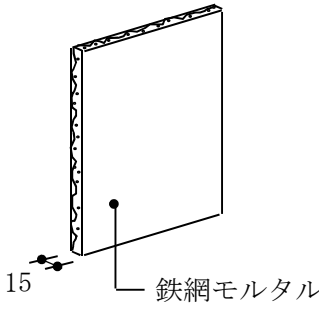
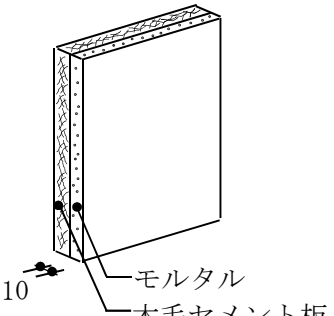
3 防火構造の構造例

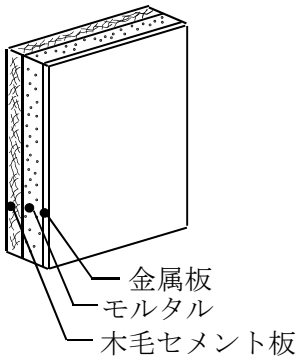
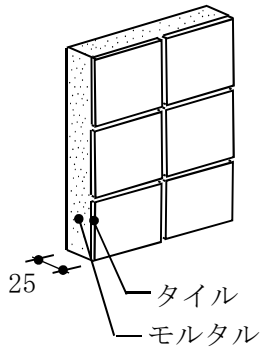
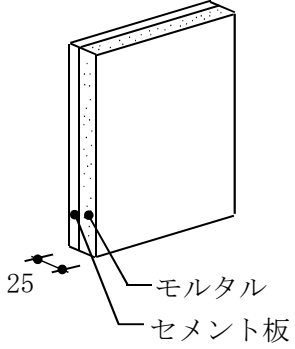
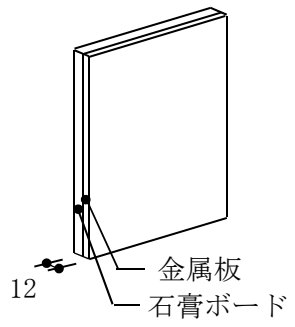
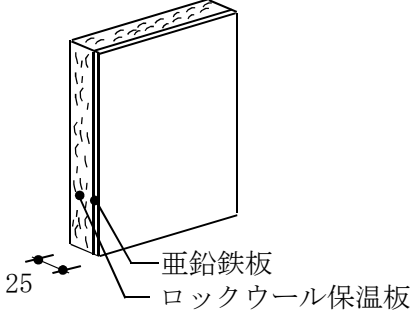
防火構造	<p>【建築基準法第2条第8号】</p> <p>防火構造 建築物の外壁又は軒裏の構造のうち、防火性能（建築物の周囲において発生する通常の火災による延焼を抑制するために当該外壁又は軒裏に必要とされる性能をいう。）に関して政令で定める技術的基準に適合する鉄鋼モルタル塗、しつくい塗その他の構造で、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものをいう。</p>
	<p>【建築基準法施行令第108条】</p> <p>法第2条第8号の政令で定める技術的基準は、次に掲げるものとする。</p> <p>一 耐力壁である外壁にあつては、これに建築物の周囲において発生する通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後30分間構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないものであること。</p> <p>二 外壁及び軒裏にあつては、これらに建築物の周囲において発生する通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後30分間当該加熱面以外の面（屋内に面するものに限る。）の温度が可燃物燃焼温度以上に上昇しないものであること。</p>

防火構造の構造方法を定める件（平成12年建設省告示第1359号）

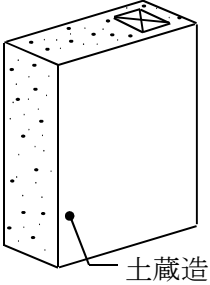
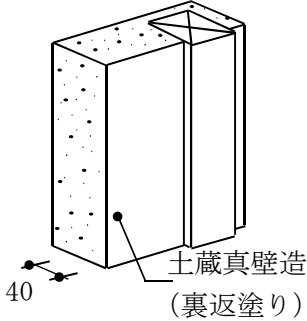
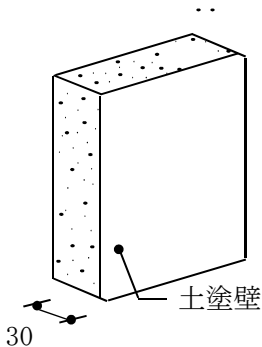
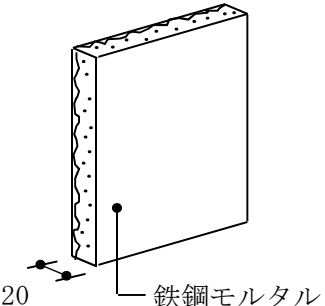
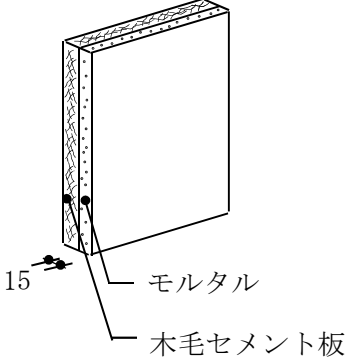
留意事項	<p>間柱及び下地を不燃材料で造り、基準に適合するもの：一ロ(1)、(2)</p> <p>間柱及び下地を不燃材料で造り、防火被覆が設けられたもの：一二(1)、(2)</p> <p>間柱又は下地を不燃材料以外の材料で造り、土蔵、防火被覆が設けられたもの：一ホ (単位：mm)</p>	
一ロ(1)	<p>厚さが50mm以上のグラスウール(かさ比重が0.01以上のものに限る。)又はロックウール(かさ比重が0.024以上のものに限る。)を充填した上に厚さが12mm以上の石膏ボード(強化石膏ボードを含む。以下同じ。)を張ったもの</p>  <p style="text-align: center;">(i)</p>	<p>塗厚さが15mm以上の鉄鋼軽量モルタル(モルタル部分に含まれる有機物の量が当該部分の重量の8%以下のものに限る。)</p>  <p style="text-align: center;">(ii)</p>

【3 防火構造の構造例】

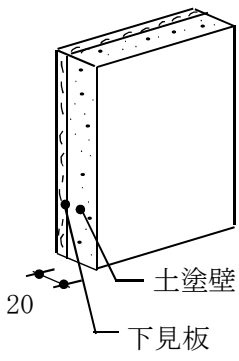
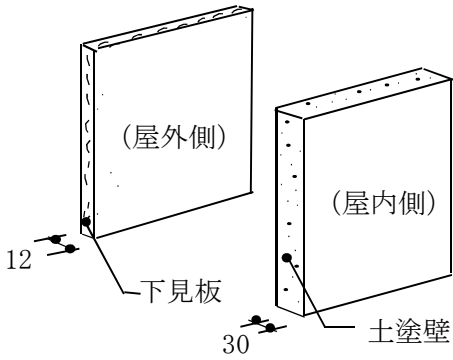
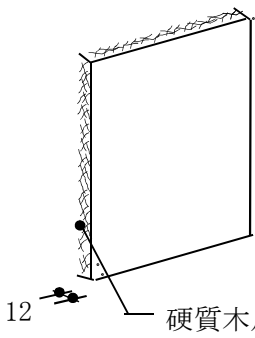
<p>一口 (2)</p>	<p>厚さが 50mm 以上のグラスウール又は厚さが 55mm 以上のロックウール (かさ比重が 0.03 以上のものに限る。) を充填した上に厚さが 9mm 以上の石膏ボード (強化石膏ボードを含む。) を張ったもの</p>  <p>石膏ボード 9 50 グラスウール</p> <p>(i)</p>	<p>厚さが 15mm 以上の窯業系サイディング (中空部を有する場合にあっては、厚さが 18mm 以上で、かつ、中空部を除く厚さが 7mm 以上のものに限る。) を張ったもの</p>  <p>15 窯業系サイディング</p> <p>(ii)</p>
<p>一口 (1)</p>	<p>厚さが 9.5mm 以上石膏ボードを張ったもの</p>  <p>石膏ボード 9.5</p> <p>(ii)</p>	<p>厚さが 75mm 以上のグラスウール又はロックウールを充填した上に厚さが 4mm 以上の合板、構造用パネル、パーティクルボード又は木材を張ったもの</p>  <p>合板 4 75 グラスウール</p> <p>(iii)</p>
<p>一口 (2)</p>	<p>塗厚さが 15mm 以上の鉄網モルタル</p>  <p>15 鉄網モルタル</p> <p>(ii)</p>	<p>木毛セメント板又は石膏ボードの上に厚さ 10mm 以上のモルタル又はしっくいを塗ったもの</p>  <p>10 モルタル 木毛セメント板</p> <p>(iii)</p>

<p>木毛セメント板の上にモルタル又はしっくいを塗り、その上に金属板を張ったもの</p>  <p>金属板 モルタル 木毛セメント板</p>	<p>モルタルの上にタイルを張ったもので、その厚さの合計が 25mm 以上のもの</p>  <p>25 タイル モルタル</p>
<p>(iv)</p>	<p>(v)</p>
<p>セメント板又は瓦の上にモルタルを塗ったもので、その厚さの合計が 25mm 以上のもの</p>  <p>25 モルタル セメント板</p>	<p>厚さが 12mm 以上の石膏ボードの上に金属板を張ったもの</p>  <p>12 金属板 石膏ボード</p>
<p>(vi)</p>	<p>(vii)</p>
<p>厚さ 25mm 以上のロックウール保温板の上に金属板を張ったもの</p>  <p>25 亜鉛鉄板 ロックウール保温板</p>	
<p>(viii)</p>	

【3 防火構造の構造例】

<p>一ホ</p>	<p>土蔵造</p>  <p>(1)</p>	<p>土蔵真壁造で、塗厚さが 40mm 以上のもの（裏返塗りをしないものにあつては、間柱の屋外側の部分と土壁とのちりが 15mm 以下であるもの又は間柱の屋外側の部分に厚さ 15mm 以上の木材を張ったものに限る。）</p>  <p>(2)</p>
<p>一ホ (3) (i)</p>	<p>上記一ニ (1) (ii) 又は (iii) に該当するもの</p> <p>※ 前出のため図は省略</p> <p>(ロ)</p>	<p>土塗壁で塗厚さが 30mm 以上のもの</p>  <p>(ハ)</p>
<p>一ホ (3) (ii)</p>	<p>塗厚さが 20mm 以上の鉄網モルタル又は木ずりしっくい</p>  <p>(ロ)</p>	<p>木毛セメント板又は石膏ボードの上に厚さ 15mm 以上のモルタル又はしっくいを塗ったもの</p>  <p>(ハ)</p>

【3 防火構造の構造例】

<p>土塗壁で塗厚さが 20mm 以上のもの(下見板を張ったものを含む。)</p>  <p>20 土塗壁 下見板</p>	<p>厚さが 12mm 以上の下見板 (屋内側が土塗壁で塗厚さが 30mm 以上のものに該当する場合に限る。)</p>  <p>12 (屋外側) 下見板 30 (屋内側) 土塗壁</p>
(ニ)	(ホ)
<p>厚さが 12mm 以上の硬質木片セメント板を張ったもの</p>  <p>12 硬質木片セメント板</p>	<p>上記一ロ (2) (ii) 又は上記一ニ (2) (v) から (viii) までのいずれかに該当するもの</p> <p style="text-align: center;">※前出のため図は省略</p>
(〜)	(ト)

※ 本資料は、防火構造の構造方法を定める件（平成 12 年建設省告示第 1359 号）第 1、一の一部を抜粋したものである。